



The Japan Council of Local Authorities for
International Relations, Singapore

シンガポールの政策 選挙制度編

2021年5月

一般財団法人自治体国際化協会 シンガポール事務所

1. シンガポールの統治機構
2. 選挙権
3. 大統領選挙
4. 国会議員選挙



Singapore General Election

1. シンガポールの統治機構

政体	立憲共和制
元首	大統領 ハリマ・ヤコブ(任期6年(2017年～)、8代目)
行政府	内閣(1府15省) ※国会の信任によって存立(議院内閣制)
歴代首相	   初代(1965-90) 第2代(1990-2004) 第3代(2004-現在) リー・クワンユー ゴー・チョクトン リー・シェンロン
立法府	一院制(与党:人民行動党(PAP))
現議席数	104名(選挙区選出議員93、非選挙区選出議員2、指名議員9)
議員任期	選挙区選出議員・非選挙区選出議員:5年、指名議員:2年半
解散	有(首相の助言により大統領が実施)

2. 選挙権



✓ 選挙権者

21歳以上のシンガポール国籍を有する者

※永住権者(PR)は選挙権を有しない

✓ 義務投票制

・棄権した場合には選挙人名簿から削除(選挙権剥奪)

・選挙人名簿への再登録は可能

(ただし、正当な理由のない棄権の場合はS\$50の手数料が必要)

【シンガポールと日本の投票率】

シンガポール		日本	
2011年総選挙	93.18%	2016年参院選	54.70%
2015年総選挙	93.56%	2017年衆院選	53.68%
2020年総選挙	95.81%	2019年参院選	48.80%

【出典】シンガポール首相府選挙局、総務省のデータを基に作成

3. 大統領選挙

(1) 選出方法

国民が直接大統領を選出する直接選挙

(2) 立候補資格（一部抜粋）

シンガポール市民であること
45歳以上であること
立候補の届出日にシンガポールに居住している者
立候補の届出日までに合計して10年以上シンガポールに居住している者
政党员でないこと
公職経験の場合は、大臣・裁判長などの重要職を3年以上経験
民間経験の場合は、過去3年間の平均株主資本 <u>S\$5億以上</u> の企業で経営トップの経験があること
<u>過去5回の選挙で大統領を出していない民族（中華系、マレー系、インド系・その他）があった場合は、その民族出身者であること</u>

※下線は、2016年の憲法改正・法律改正により追加された資格

【出典】シンガポール首相府選挙局

3. 大統領選挙

(3) 2017年大統領選 (2017年9月)

- ✓ マレー系女性のハリマ・ヤコブ前国会議長が無投票で第8代大統領に就任(任期6年)
- ✓ 無投票当選での大統領就任には反発の声も



初の女性大統領ヤコブ氏

【歴代大統領】

在任期間	氏名	民族
1965-1970	ユソフ・ビン・イサーク	マレー系
1971-1981	ベンジャミン・ヘンリー・シアーズ	中華系
1981-1985	チェンガラ・ヴェーティル ・デヴァン・ナイール	インド系
1985-1993	ウィー・キムウィー	中華系
1993-1999	オン・テンチョン	中華系
1999-2005	セツラパン・ラーマナータン・ナザン	インド系
2011-2017	トニー・タン・ケン・ヤム	中華系



大統領官邸「イスタナ」

4. 国会議員選挙

(1) 議員の類型等

	シンガポール	日本
国会	一院制	二院制
被選挙権	満21歳以上のシンガポール国籍を有する者	衆議院: 満25歳以上の日本国籍を有する者 参議院: 満30歳以上の日本国籍を有する者
議員の類型	①選挙区選出議員 (直接選挙により選出) ②非選挙区選出議員 (落選した野党候補者から選任) ③指名議員 (大統領が任命)	衆議院・参議院とも全て直接選挙により選出
任期 ・ 現議席数	(2020年総選挙) ①選挙区選出議員: 5年、93議席 ②非選挙区選出議員: 5年、最大12議席 ③指名議員: 2年半、9議席	衆議院: 4年、465議席 参議院: 6年(3年ごとに半数改選)、242議席

【出典】シンガポール首相府選挙局、総務省のホームページを基に作成

(2) 選挙制度

①小選挙区

- ✓ 1選挙区ごとに1名を選出

②集団選挙区

- ✓ 1選挙区内の定数は4名か5名(各選挙区の有権者数を考慮して決定)
- ✓ 有権者は政党に投票し、最大得票政党がその選挙区の議席を全て独占
- ✓ 選挙に臨む際、各党は定数分の立候補者を用意しなければならない
- ✓ 「民族クォータ制」
立候補者グループ内に少なくとも1名は、国民の約75%を占める
中華系以外の候補者を入れなければならない

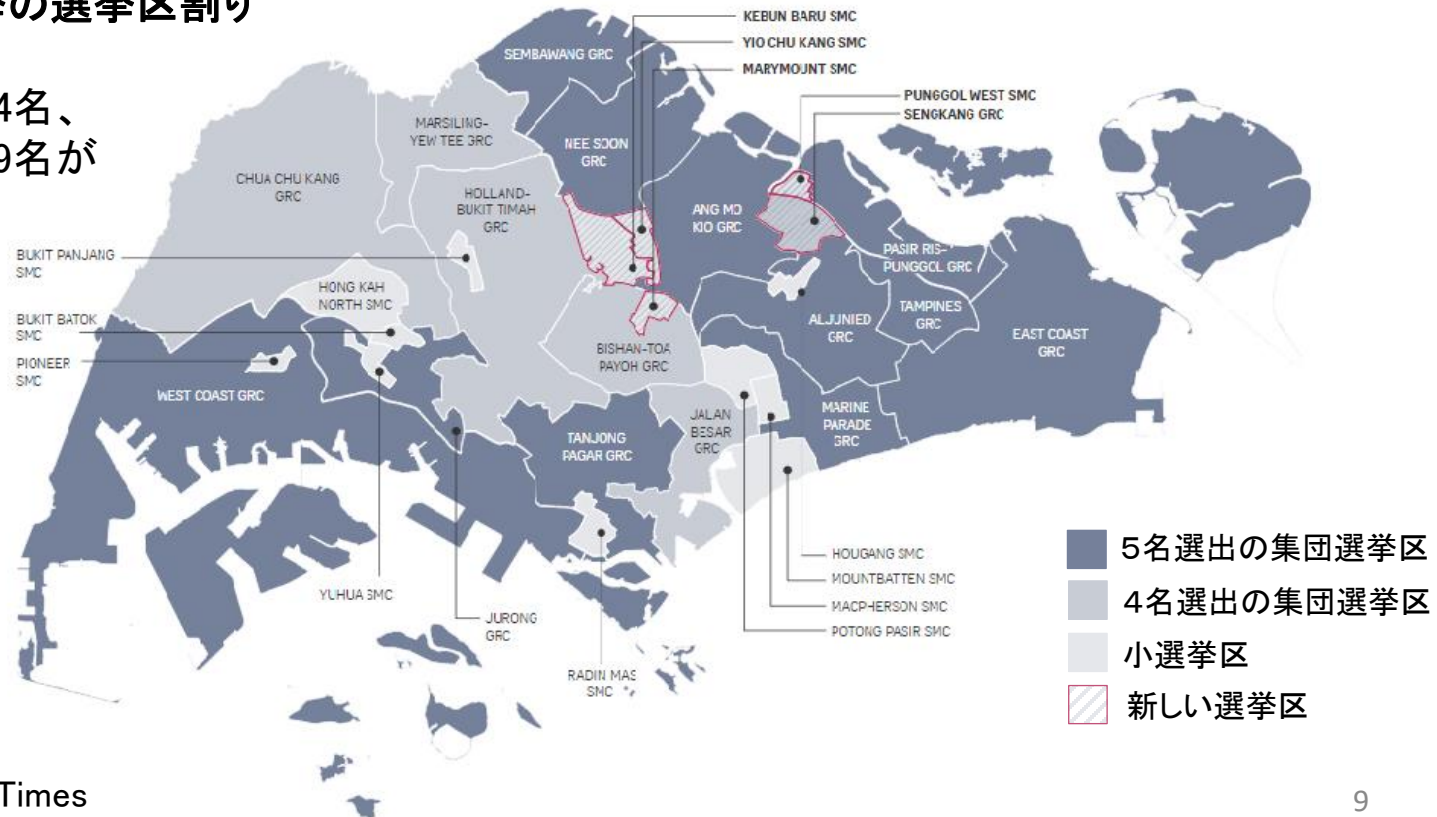
4. 国会議員選挙

(2) 選挙制度

- ✓ 全土を小選挙区(1名選出)と集団選挙区(4名~5名選出)に区割り
- ✓ 議員定数及び区割りは、選挙区割り見直し委員会(EBRC)の諮問に基づき、首相が決定 ⇒ 与党有利の区割り

【参考】2020年総選挙の選挙区割り

※14の小選挙区で14名、
17の集団選挙区で79名が
選出される。



(3) 選挙運動

① 国会解散から投票日までの流れ

国会解散(=大統領による選挙の実施を命じる令状の発布)
立候補届出日発表



立候補届出日



クーリングオフ・デー<投票日の前日>



投票日



選挙運動期間
(9日間)

3か月以内

② 内容

✓ 集会、個別訪問、テレビ放送、SNS等

※集会に対する規制:公安委員会の許可、警察による日時・会場の指定

③ 各候補者の選挙費用上限 (2015年総選挙時)

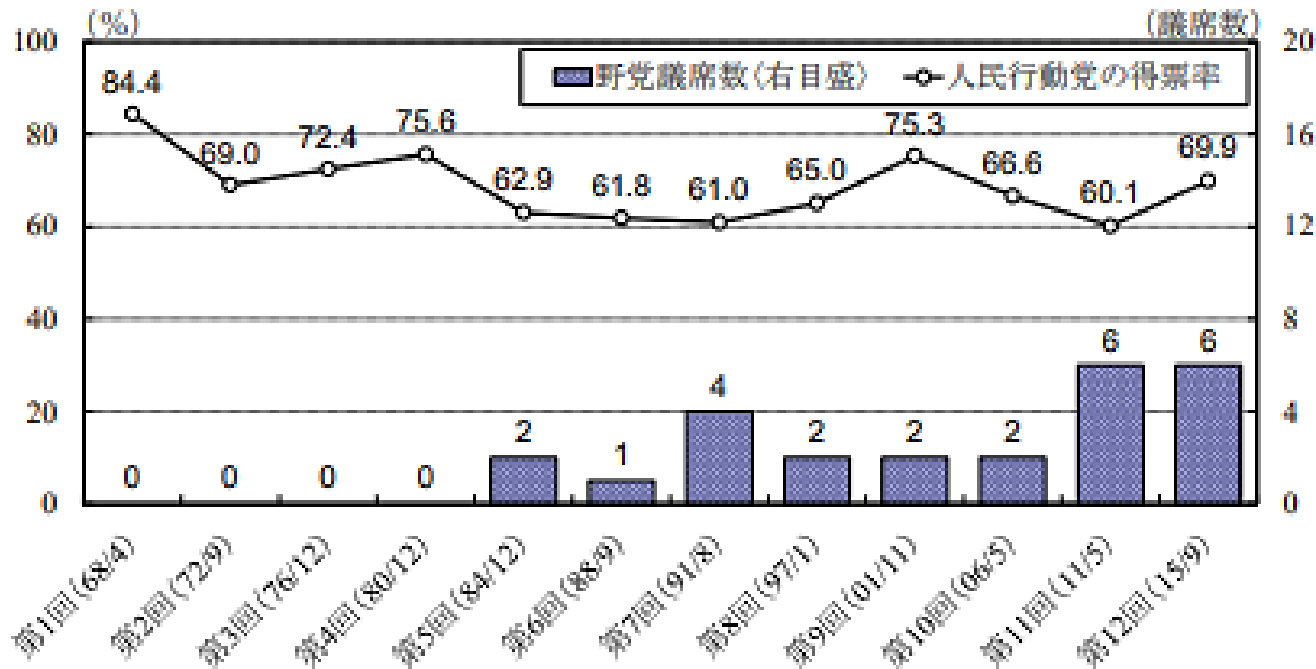
✓ 小選挙区:選挙区の投票権者数 × S\$4

✓ 集団選挙区:選挙区の投票権者数 × S\$4 ÷ 当該選挙区の選出議員数

(4) 近年の総選挙の動向

①2011年総選挙

- ✓ 人民行動党(PAP)の得票率は60.14%と史上最低を記録
- ✓ 野党の選挙区選出議員は改選前2議席から6議席に躍進
- ✓ 外国人労働者の急増に伴う様々な弊害や物価高、所得格差に対する不満、事実上の一党支配が続く中で多様な声を反映できる政治システムへの変革を求める国民の要望の高まり等が、過去最低の得票率として現れた。



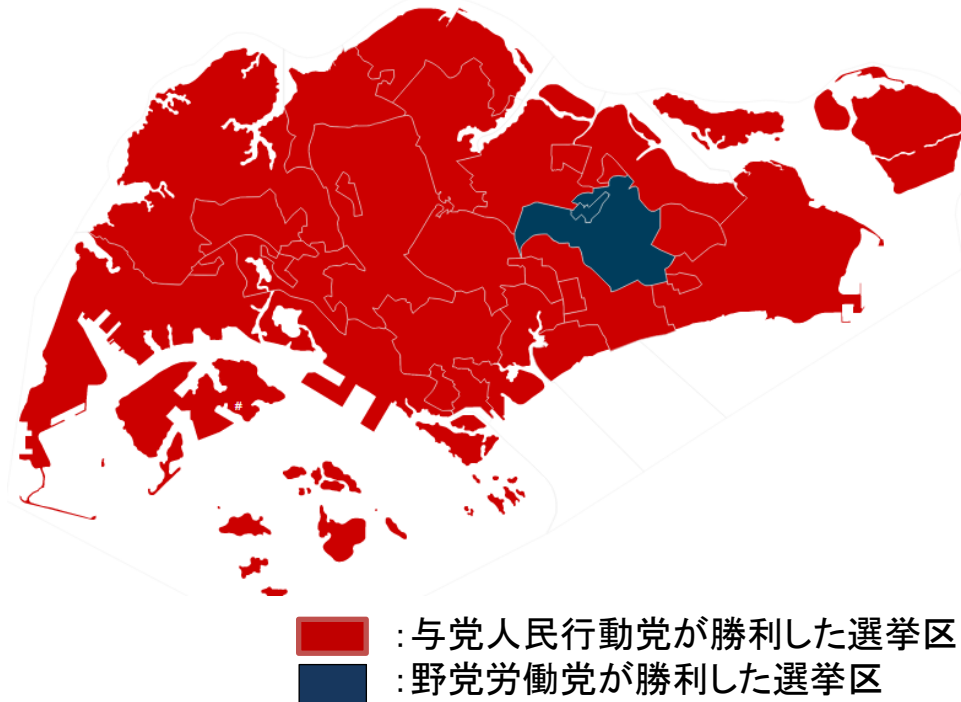
【出典】三菱UFJ銀行「BTMU ASEAN TOPICS(No.2011-6)」

4. 国会議員選挙

(4) 近年の総選挙の動向

②2015年総選挙

- ✓ 人民行動党(PAP)は69.86% の得票率を獲得。(投票率 93.56%)
- ✓ 29選挙区中、27選挙区で人民行動党(PAP)の勝利。
- ✓ 2011年総選挙結果を踏まえ、人民行動党(PAP)政権は雇用、住宅、交通、教育政策等を見直し、新政策を相次いで発表。
→国民の雇用・所得環境の向上、社会保障制度拡充、物価高の抑制等の改善が見られた。
→これらの取り組みへの国民の支持が得票率に反映。



【出典】Channel NewsAsia

【選挙区選出議員(定数:89)内訳(2015年総選挙)】

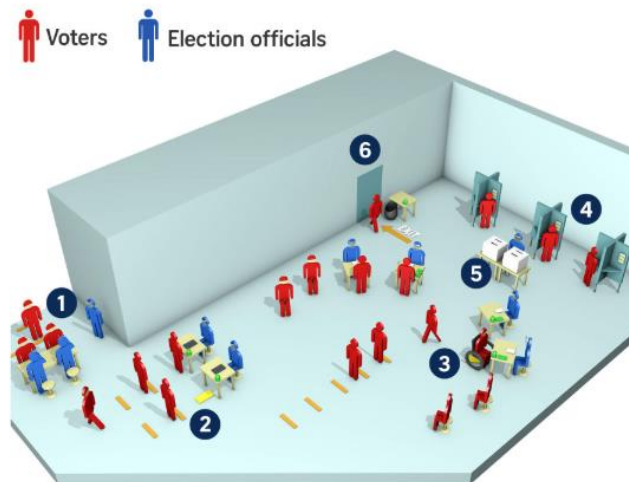
	小選挙区	集団選挙区	獲得議席数	得票率
与党	12	71	83	69.86%
野党	1	5	6	30.14%

4. 国会議員選挙

(4) 近年の総選挙の動向

③2020年総選挙（新型コロナ対策）

- ✓ 投票所を880カ所から1,100カ所へ増設
- ✓ 投票時間の割り当て(2時間の推奨時間帯)
- ✓ 投票所での検温、手の消毒、マスク・使い捨て手袋の着用、安全な距離の維持
- ✓ 電子登録システムの導入
- ✓ SHN適用者は専用投票所へ
- ✓ 病気の場合、手数料なしで選挙人名簿への復帰可能
- ✓ 選挙活動はオンラインでのキャンペーン中心やテレビでの政見放送中心



【出典】The Straits Times

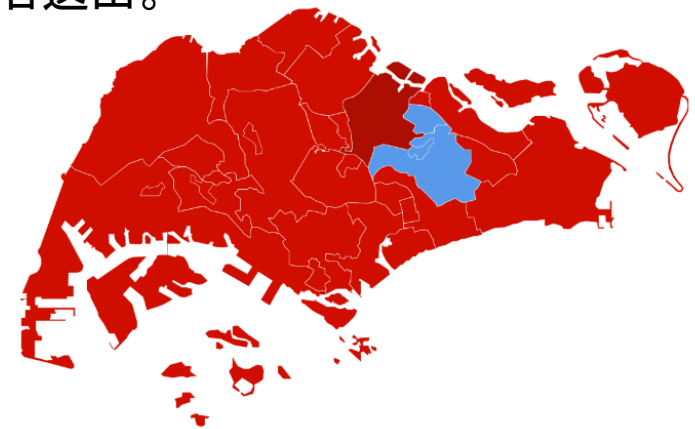
(4) 近年の総選挙の動向

③2020年総選挙

- ✓ 与党・人民行動党(PAP)の得票率は61.24%と2015年を下回り、93議席中83議席の獲得となった。議席獲得率は最低。
- ✓ 野党・労働党(WP)がセンカン集団選挙区含む3区で与党・PAPに勝利。2015年の6議席から10議席へと獲得数を伸ばした。
- ✓ 野党・前進党(PSP)がウエストコースト集団選挙区にて与党・PAPに僅差で敗北。非選挙選出議員に2名選出。
- ✓ 若い層が弱者に配慮したWPを支持。新設されたPSPもリーシェンヤン効果で善戦。

【選挙区選出議員(定数:93)内訳(2020年総選挙)】

	候補者	当選者	勝利選挙区	得票率
PAP	93	83	28	61.24%
WP	21	10	3	11.22%
PSP	24	0	0	10.18%



- :与党人民行動党が勝利した選挙区
- :野党労働党が勝利した選挙区

(5) 今後の展望

- ✓ リー・シェンロン首相は当初、70歳の誕生日を迎える2022年2月までに退任することを表明していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、「シンガポール国内を良い状態にしてバトンタッチしたい」と発言しており、首相交代時期を延期する可能性があるとみられている。
- ✓ 次期首相の有力候補と見られていたヘン・スイキヤット副首相兼財務相、経済政策調整相(60)が、2021年4月8日に次期首相の座を辞退すると表明。リー・シェンロン首相はヘン氏の意向を尊重して、5月15日に内閣改造を実施。後継者候補となる第4世代(4G)リーダーを閣僚として続投させている。
- ✓ 次期首相の有力候補として、教育相のチャン・チュンシン氏、保健相のオン・イェクン氏、財務相のローレンス・ウォン氏、国家開発相デズモンド・リー氏などが挙げられている。



Singapore General Election

～御静聴ありがとうございました～